

障害者支援施設 鹿野かちみ園

1 基本方針

利用者の意思と権利を尊重しながら、一人ひとりが生きがいや役割をもって楽しく健やかに生活できるよう日々支援するとともに、地域移行をはじめ、その人に相応しい自立への支援を行う。

2 利用者の状況（令和3年3月31日現在）

(1) 入所者状況

(人)

利用人数		前年度末利用者数	令和2年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数	
区分	定員		入所人員	退所人員	退所理由別				死亡					
					地域移行	GH	アパート等	家庭復帰		施設移管				契約解除(入院等)
生活介護	70	76	3	7	0	0	0	5	0	2	17,559	93.3%	72	
施設入所支援	70	65	1	6	1	0	0	3	0	2	21,867	85.6%	60	
元 転	生活介護	70	78	3	5	0	0	0	4	0	1	19,058	100.8%	76
	施設入所支援	70	70	0	5	0	0	0	4	0	1	24,160	94.3%	65

(2) 障害支援区分

①生活介護

(人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	2	12	15	7	36
女性	0	0	0	4	11	15	6	36
計	0	0	0	6	23	30	13	72

②施設入所支援

(人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	1	10	13	7	31
女性	0	0	0	2	7	14	6	29
計	0	0	0	3	17	27	13	60

3 事業の実施状況

(1) 要介助高齢知的障がい者支援

ア 高齢化による疾病（生活習慣病等）、身体機能低下（ADL低下）、脳の機能低下（認知思考、気力等の低下）が見られる利用者について、専門的知識・技術を園内外の研修で習得し実践した。今年度は、新型コロナウイルスの影響でオンライン研修を中心にリモートでの参加が多かった。

(ア) 健康管理

- ・嘱託医及び他の医療機関と緊密な連携を図り、健康状態の異常早期発見・早期治療に努めた。今年度より月2回、精神科医の往診が始まり、症状の不安定な方への早期対応ができるようになった。
- ・感染症の予防と適切な対応で感染症の侵入を防ぐことができた。
- ・令和2年度の入院は16件（摂食障害・誤嚥性肺炎・意識消失・行動障がい等）、救急車対応は3件あった。

元年度の入院は20件であり減少した。しかし、高齢化に伴う各種疾病の増加により、入院治療が必要なケースは増加していることから、今後も不調の早期発見・早期対応に努めていきたい。

- ・夜間利用者の急変に落ち着いて対応できるよう、夜間想定救急対応訓練を毎月実施した。併せてKYT研修（危険予知）についても実施した。

(イ) ユマニチュードの取組について

ユマニチュード研修についてオンラインを通して受講した。基礎的な研修だったが園内復命研修を通して他の職員に理念を伝えることができた。

ユマニチュードとはケアの対象である相手に「あなたは大切な存在である」というメッセージを相手理解できる形で伝えることであり、対人援助技術の基本をわかりやすく学ぶ機会となった。

(ウ) ADLの活動性を高める支援

・摂食嚥下に係る研修は実施できなかったが管理栄養士、嘱託医、看護師、支援員と連携し、個々の利用者の評価及び食スタイル（食形態・食事環境など）を随時見直し、誤嚥性肺炎や喉詰めの防止に努めた。

・機能訓練担当（PT）職員の配置により、集団訓練および個別訓練を実施した。これにより運動や訓練を実施することで介護予防を図った。

・法人内他施設から、電動ベッドを譲り受け、高齢化・重度化に対応した環境を整えることができた。

・高齢者に多い皮膚トラブルについては、入浴後・就寝前、全身に市販のボディローションを塗布することで、乾燥による掻痒感を軽減することができた。また、オムツ使用による皮膚のトラブルについては、皮膚状態の改善に効果のある布パンツへの移行に引き続き取り組んでいきたい。

・生きがいつくりとして、地元企業の下請け作業に取り組み、工賃を得たり、アート活動や生け花、音楽療法等で自己表現することで、達成感や充実感に繋がった。

さらに、コロナ禍ではあっても、楽しみのあるアクティブな活動として、ドライブ外出やバーベキュー大会などを企画し余暇の充実に取り組んだ。

・歯科医師と歯科衛生士により、各3ユニット2回ずつ、計6回の歯科検診と口腔ケア指導を実施し、ブラッシングや唾液腺マッサージ等の技術を習得することができた。

(2) 利用者支援の向上

ア 行動障がいがある方や高齢知的障がい者の方を対象として、2カ月に1度、法人内職員をアドバイザーとしてケース検討会を実施した。このケース検討会には、行政機関や相談機関にも参加してもらい、支援の現状を広く周知した。

イ 精神障がいがある方を対象として、月に1度、外部の臨床心理士により面談を行うことで利用者の精神状態の安定を図ると同時に、利用者の関わり等支援のアドバイスをいただいている。

ウ 職員を対象として、てんかんについての研修会を実施した。

(3) 「社会参加の機会の確保」及び「地域社会における共生」・「福祉人材教育」の推進

ア 今年度は新型コロナウイルスの関係で鹿野学園との運動会等の交流はできなかった。

また、勝谷地区の行事も中止がほとんどだったがコスモスの種まきは実施でき、地域の方との距離を取った屋外での交流は実施した。

(4) 虐待防止に向けての取り組み

ア 虐待防止チェックリストを年2回実施し、丁目会議や虐待防止委員会で検証を行い、職員の日々の支援の振り返り及び対応を話し合った。園内虐待防止研修においてもチェックリストの内容に基づき、丁目毎のグループワークを実施した。

イ ヒヤリハット報告や自治会から、虐待に繋がる事案がないか確認したが、年間を通じて虐待に繋がると思われる事案はなかった。

ウ 苦情箱に入れられた利用者の声や、地域住民からのご意見に対して苦情解決委員会、丁目会議等で話し合い、改善に努めた。

エ 今年度はウェブ研修で「権利擁護セミナー」、「障がい者虐待防止共通基礎研修」、「障がい者虐待防止・権利擁護研修」等、権利擁護研修に積極的に参加した。

オ 園内研修では、年に3回、全職員を対象に「権利擁護・虐待防止研修」を実施した。

(5) 経営改善・基盤の確率

・今年度の稼働率は、以下のとおりであった。

目標稼働率：生活介護102%、施設入所94%、短期入所41%

実績稼働率：生活介護93.3%、施設入所85.6%、短期入所62.2%

- ・9月1日から手厚い配置（支援職員2.5→2:1）とし、人員配置体制加算の区分を変更したことによって増収に繋がるとともに、男子ユニットに女子職員を配置することで利用者支援の向上にも繋がった。
- ・一方、定員60名への減員の計画に基づき、欠員補充を行わなかったため、稼働率は計画に対して減となった。
- ・障害支援区分は生活介護平均4.6、施設入所平均4.7で推移している。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取市社会福祉協議会	8月～9月	4人	20人
鳥取社会福祉専門学校	11月～12月	3人	15人
計		7人	35人

(2) ボランティアの受入実績

鳥取市鹿野町赤十字奉仕団

[延べ27人]

5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 2名及び空床型

(2) 日中一時支援事業 定員 上記同様

(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	8	454	8	367
日中一時支援事業	0	0	0	0